

人権 2022 Spring

Human Rights

立教大学
人権・ハラスメント対策センター

https://spirit.rikkyo.ac.jp/human_rights/

立教大学は個人のアイデンティティ、思想や信条の自由を理念としています。人権・ハラスメント対策センターはこの理念に基づき、ハラスメントの防止と発生時の問題解決をサポートしています。センターでは人権意識の高いキャンパス環境を目指して、毎年、人権に関する講演会や映画上映会を開催しています。

2021年度 秋季人権週間プログラム

「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」コラボレーション企画

偏見や差別はなぜ起こる

2021年11月19日（金）17:30～19:00 オンライン開催（YouTube Liveにて配信）

講師：北村 英哉（きたむら・ひでや）氏
（東洋大学社会学部教授）

● 講演会レポート ● 法学部 高橋 美加 教授

2021年度人権・ハラスメント対策センター主催秋季公開講演会は、「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」とのコラボレーション企画として、東洋大学の北村英哉先生をお招きし、ご講演いただきました。YouTube Liveで行われた講演会には学内のみならず全国各地から400名以上の登録申込みがあり、関心の高さがうかがわれました。

ご講演では、無自覚・無意識の偏見（アンコンシャスバイアス）について、これがどんなものであるか、いかにこれを自覚して偏見や差別のない社会を作り上げるかをテーマに、北村先生のご専門である社会心理学の知見をお話いただきました。特に印象深かったのは差別の有り様に関する概念のご説明です。攻撃的な差別行為が批判の対象になることは誰も分かることですが、「温情的差別」と呼ばれる、一見ポジティブな言説の中でネガティブな内容が抱き合わされる差別が現代の課題であることに気づかされました。例えば「女性は気が利いて、細かいことまで気づき、人に優しい」のような言説は、一見、女性全般をポジティブに評価しているかのように見えますが、本来は個性差であるはずの性格の違いを性差のステレオタイプに当てはめ、だから女性は家庭内労働に向いており、労働環境の中で重要なポジションに就かなくてもいいのだ、という結論を導きかねないものです。実際、心理学の実験ではこの言説を聞かされた女性労働者のパフォーマンスが低下したと言います。

温情的差別はどこにでも潜んでいます。先生は、威圧的な上下関係を有する同質的な集団では特にそれを見つけにくく、一部の構成員のみが生きやすい社会になりかねないと警鐘をならしておられます。



その存在に気づくには、多様な意見が反映される組織作りが必要であり、それ故に多様性が尊重されるべきことを指摘されて、ご講演は終了しました。

参加者からも多くのコメントが寄せられました。差別的言動を指摘しづらい現実に悩むコメントに対し、個々人に対して丁寧に対話し向き合うことの積み重ねが大事である旨のお答えをいただきました。最後に「社会は意外と変えられる、タバコに対する対応がこの30年で変化したように」とのメッセージは、実に勇気づけられるものであったかと思います。多くの気づきを得る機会となった今回のご講演をお引き受け下さった北村先生に、改めて厚く御礼を申し上げます。

● 参加者の声 ●

- ・偏見・差別の定義や歴史、国際基準と照らし合わせながら具体例も挙げて説明してくださり、とても勉強になりました。無意識の差別に気をつけたいと思います。
- ・差別というと、どうしても差別をしている個人に目が向きがちですが、構造を見る必要があると思いました。世界的にコンプライアンスが重視されるようになった背景や、日本の組織の現状など初めて聞くお話が多かったのが非常に興味深かったです。一方で、身近に感じられる差別についての話題もあり、実感を持って学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・ステレオタイプが今まで獲得してきた知識であるというお話から、ステレオタイプを捨てるのではなく、自分の考えを俯瞰して検討する目が必要なのだと改めて考えました。自分に引きつけて考えたいお話ばかりでした。



◆ 「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」はこちらからご覧いただけます。

<https://www.rikkyo.ac.jp/news/2021/04/mknpps000001jk45.html>



2021年度 春季人権週間プログラム

マイクロアグレッション

—日常生活に埋め込まれた無自覚の差別—

2021年7月5日（月）17:30～19:00 オンライン開催（YouTube Liveにて配信）

講師：金 友子（きむ・うぢゃ、KIM WOJJA）氏

（立命館大学国際関係学部国際関係学科准教授）

● 講演会レポート ● 文学部 上田 信 教授

2021年度春の人権週間プログラムでは、立命館大学国際関係学部国際関係学科准教授の金 友子（きむ・うぢゃ）さんの講演をオンラインで伺いました。参加申込みは300名を超えました。

金さんのお話が終わった後、オンラインで視聴していた方が、自らの体験を語り始めました。大学生のとき、在日コリアンが多く住む地区の子どもたちと遊ぶサークルに加わり、在日の青年と親しくなった、酒

の席で「おれは差別なんてせいへんよ。おれもお前も同じ人間やないか」と発言したそうです。すると、その青年は彼の胸ぐらをつかんで怒りだしたというのです。

なぜ、在日の青年は激怒したのでしょうか。

金さんには、在日コリアンの女性の経験に立脚して、日常生活に埋め込まれた「^{アグレッション}攻撃」について、具体的に語っていただきました。「日本語うまいね、いつ日本に来たの?」「日本人と変わらないよ、同じだよ」「毎日キムチ食べている?」。日々投げかけられるそうした言葉に、金さんは「息苦しさ」を覚え、やがてそれが蓄積して「生きづらさ」を感じるようになったとのこと。

マイクロアグレッションとは、日常生活に埋め込まれた差別です。ヘイトスピーチやハラスメントは、明らかに間違っています。それに対して上に掲げた言葉は、間違っていない。しかし、誰が誰に対して向けた言葉なのか、という点を見落としてはいけません。発話者は日本語の流暢さをほめようとしているのかもしれないし、「同じだよ」となぐさめているのかもしれない。単に関心を持っていることを示そうとしているだけかもしれませんが、しかし、そのような発言をする相手の心には、一本の境界線が引かれています。その線の「こちら側」が発話者よりも少数者であったり、立場が弱かったりした場合、線の「あちら側」にいる相手のなにげない発言に、心が傷つけられるのです。いや「なにげない」からこそ、より深く傷つけられるともいえるでしょう。

こうした「なにげない差別」は、学術的な概念が与えられることで、はじめて認識の対象とすることができます。その概念が、マイクロアグレッションです。金さんが関わったチームが翻訳したデラルド・ウィン・スー(マイクロアグレッション研究会 訳)『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション』(明石書店、2020年)では、「マイクロアグレッションとはありふれた日常の中にある、ちょっとした言葉や行動や状況であり、意図の有無にかかわらず、特定の人や集団を標的とし、人種・ジェンダー・性的指向・宗教を軽視したり侮辱したりするような、敵意ある否定的な表現のことである」と定義されています。

もし線のあちら側から投げかけられた言葉で息苦しさを感じたら、「それはどういうことですか?」と問いかけ直すことが大切だと、金さんは指摘します。本稿の冒頭で紹介した方も、在日コリアンの青年の怒りを受けて、自らの心の中に境界線があることを自覚し、人生の転機の一つになったそうです。



● 参加者の声 ●

- ・学術的知見と金先生の個人的なご経験が有機的に結びついた貴重なご講演で、大変勉強になりました。また、「マイクロアグレッション」のインパクトは 1990 年代に輸入された「セクシュアル・ハラスメント」に匹敵しうる可能性を秘めているのではないかと、というご指摘も興味深く思いました。
- ・マイクロアグレッションを受ける側にとっては、点ではなく線で受け止めると仰られたことがとても重く感じられました。もしかしたら私は忘れてしまっている、過去に私が何の気なしにした発言が、誰かにとってそうした蓄積の一部になっているかもしれないと思うと、マイクロアグレッションを取り上げることの重要性を感じました。
- ・金先生の「足を踏んでいる人は、その足をどかすことができる」、気づきが大事だという言葉が印象に残りました。

人権週間プログラム等 講演会・映画上映会のご案内

人権・ハラスメント対策センターでは、毎年、人権に関する講演会や映画上映会を開催しています。過去に開催した講演会の内容は、人権・ハラスメント対策センターHP からご覧になれます。是非アクセスしてご覧になってください。

 [人権・ハラスメント対策センター ▶ 取り組み ▶ 人権週間プログラム講演録](#)

授業中のマナーについて



学生の皆さんには良好な学習環境の中で授業を受ける権利があります。例えば、私語、スマートフォンによる撮影音、バイブレーション機能の音——これらにより学習環境を悪化させることは、ほかの学生の学習する権利を奪うこととなります。授業は静かに受けましょう。

なお、教員が私語をしている学生に適切な注意を行うことは、ハラスメントにはなりません。

人権・ハラスメント対策センター 相談室

気になること、ハラスメントかどうかわからないが相談してみたいことなどありましたら、お気軽に人権・ハラスメント対策センターまでお問合せください。

キャンパス	池袋	新座
場所	6号館1階	6号館3階
電話番号	☎ 03-3985-3192	☎ 048-471-7396
E-Mail	jinken@rikkyo.ac.jp	
開室時間	月～金 9:00～17:00	

開室状況は随時変わります。ご相談の際は 人権・ハラスメント対策センターHP > 「お知らせ」に掲載している「開室カレンダー」をご確認の上、メールにてご連絡をお願いいたします。

 [人権・ハラスメント対策センターHPはこちら](#)

https://spirit.rikkyo.ac.jp/human_rights/

スマートフォンから
ご覧いただけます

